

平成30年度

第3回加賀市地域公共交通会議

議事録

日時 平成30年10月29日(月)
午後1時30分～午後2時30分
場所 加賀市役所別館3階 302・303会議室

平成 30 年度 第 3 回加賀市地域公共交通会議

日 時 平成 30 年 10 月 29 日 (月)
午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分
場 所 加賀市役所別館 3 階 302・303 会議室

1 開会

事務局

本日は、お忙しい中また急なご案内にも関わらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは、平成 30 年度第 3 回加賀市地域公共交通会議を開催いたします。

2 会議成立報告

事務局

まず始めに、会議の成立報告を申し上げます。

本日の会議の出欠状況につきましては、5 名の委員が欠席であります。過半数に達する出席となっていますので、加賀市地域公共交通会議設置要綱第 7 条第 3 項に基づき、本日の会議は成立していることをご報告します。

なお、近藤会長におかれましては、所用によりご欠席の連絡が入っています。そのため、本日の議長はこの会議の副会長であります、山下副市長にお願いしたいと思います。

それでは、山下副市長、よろしく申し上げます。

3 報告

副会長

事務局からもありましたが、急な開催案内にも関わらずお集まりいただき、ありがとうございます。近藤会長に代わり議長を務めさせていただきます。

まず、上半期の地域公共交通の利用状況について、事務局より報告をお願いします。

事務局

まず、加賀温泉バスが運行する路線バスについてです。上半期は 5 路線合計で 197,942 人、1 ヶ月平均では 32,990 人の利用がありました。対前年度比 98.9%で、ほぼ横ばいで推移しています。路線別では、「吉崎線」が対前年度比 77.3%となっています。主に錦城中学校への通学手段として利用されているので、少子化の影響かと思われます。また、加賀市医療センターへの通院利用も減少傾向にあると分析しています。「山代大聖寺線」についても、対前年度比 96.8%となっており、高校生利用の減少によるものと分析しています。

次に、「キャンパス動橋・橋立循環線」についてです。いずれの便も、前年度と比べ大幅に増加しています。特に、夕便が対前年度比 204.0%となっています。高校生の通学手段として、機能していると思われます。

次に、乗合タクシーについてです。上半期は 3 エリア合計で 7,774 人、1 ヶ月平均では 1,296 人の利用がありました。対前年度比 118.6%となっています。エリア別では、エリア②が対前年度比 67.0%となっています。エリア②については、運行開始以来、利用が低調だったので利用説明

会等を開催してきましたが、新たな利用促進策が必要と考えています。

副会長

続いて、10月から「キャンバス片山津・橋立循環線」が湖北地区に乗り入れています。まちづくり加賀より、湖北地区での利用状況や、乗り入れ前と比較して利用がどれほど増加したのかをご報告いただければと思います。

まちづくり加賀

本日は、ご多忙のところ、お集まりいただきありがとうございます。

「キャンバス片山津・橋立循環線」の利用状況についてです。10月1日から26日までで、朝便は433人、夕便は204人、夜便は96人の利用がありました。乗り入れ前の9月は、朝便429人、夕便192人、夜便73人の利用でした。9月の雪の科学館での乗降人数と比べても新停留所での乗降人数の方が多くなっています。また、10月に入り新規の定期券購入者が2名、新規の回数券購入者もいました。湖北地区への乗り入れにより、利用者が増えたと考えられます。なお、利用者等からは、「バス停が近くなり送迎の必要がなくなったため助かっている。」や、一部の方ですが、「一白町の近くにもバス停があるととても便利なので検討して欲しい。」といった声があがっています。

今後は、再度、ダイヤやバス停の設置場所について、市と協議していきたいと思います。

副会長

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはございますか。

委員

「キャンバス片山津・橋立循環線」の利用人数には、定期券や回数券利用の方も含まれますか？

まちづくり加賀

全ての利用者を計上しているため、定期券や回数券利用の方も含まれます。

副会長

今後とも利用状況に応じた、利便性の高い路線となるよう改善を重ねていただきたいと思います。

4 議事

【議事(1) 「キャンバス山まわり線」及び「キャンバス海まわり線」の運行見直しについて】

【議事(2) 「キャンバス山まわり線」の粟津温泉乗り入れについて】

副会長

それでは、議事に入りたいと思います。

本日は、8月に書面表決いただきましたキャンバスの「山まわり線」と「海まわり線」の運行内容の変更から、さらに変更が必要となったため、お集まりいただきました。議事1は、『「キャンバス山まわり線」の粟津温泉乗り入れについて』

ンバス山まわり線」及び「キャンバス海まわり線」の運行見直しについて』、議事2は、『「キャンバス山まわり線」の粟津温泉乗り入れについて』です。議事2については、当初、10月からの乗り入れということで書面表決していただきましたが、まだ乗り入れを開始しておらず、再度お諮りするものです。また、小松市の交通会議においては、すでに書面表決により承認していると伺っております。

それでは、まちづくり加賀からご説明をお願いします。

まちづくり加賀

はじめに、資料1ページのまちづくり加賀の4ヵ年計画についてです。2023年3月に北陸新幹線敦賀開業となります。キャンバスは同時期に、加賀温泉郷の2次交通機関としての環境整備と、円滑な運営を実施するため、次の計画を実施します。

まず、運行計画を改善し、財務を健全化します。乗降データを基に、12月1日からバス運行回数を削減し、バス運行委託費及び人件費の減額をすることで、半期350万円、年間700万円の経費削減を実施し、3年半で累積赤字を改善します。具体的には、キャンバスを5台から4台運行とします。

次に、12月1日から粟津温泉に乗り入れを開始します。加賀四湯を宿泊地とした回遊性旅行商品の造りができ、旅行会社の企画商品作成に寄与できます。加賀温泉郷の2次交通完備をPRします。

次に、小松空港を利用する沖縄からの誘客を進めます。(株)JAL JAT セールスで、小松空港を利用して石川県(金沢市)の観光に来るお客様に加賀温泉郷で宿泊をする「冬の金沢・加賀温泉郷観光3日間の旅」を提案し、8月に周遊券販売協定をしました。

次に、地域住民の公共交通機関として、地域密着を推進します。市内の2つの高校に通学する関係者から要望のある、生徒の居住地を経由する路線で運行し、市民の交通手段として認知度を高め、行政当局との連携を進めます。こちらについては、10月から湖北地区への乗り入れを開始しました。また、市内小学校の学年行事として利用いただいている、「キャンバスで巡る加賀市探訪」を、県内外の学校等に働きかけています。実施例としては、「金沢市のボーイスカウト一行」や「野々市市のカブスカウト一行」があります。

財務の健全化と粟津温泉への乗り入れについては、6月の株主総会で決議されています。

昨年度においては、880万円ほどの赤字となりました。損失の原因としては、大雪により20日間運休したこと、国の補助金が4分の1に減額されたことが考えられます。累積赤字が膨らんだため、株主総会でも減車・減便の声がありました。8、9月の状況を見て判断することとしましたが、結果、台風の影響で電車が計画運休となりお客様が来られない状況でした。

3ページには、キャンバスの運行見直しについて記載しています。これまでの財務状況から、5台を4台運行に変更したいと思いますが、お客様には最小限の範囲で不便のないようにしたいと思います。地域住民が利用する「片山津・橋立循環線」と「小松空港便」は、従来通りのダイヤで運行します。「山まわり線」は、ダイヤが接近しているM1とM2、M5とM6、M9とM10の利用データを検証し、統合しても定員65名のバスで輸送できるので、それぞれを統合して7便運行とします。「海まわり線」については、実際に施設に停車するバスの本数は、例えば、月うさぎの里は7便、北前船の里資料館は7便です。改正後は 地域住民が利用する加賀市医療センターへの到着に考慮して、観光客が移動するバスの運行経路を見直すことで、月うさぎの里は6便、北前船

の里資料館は6便停車します。「海まわり線」は1周100分かかるので、現在は、フルーツランドを乗換え拠点とし、60～70分で1周できるよう半分に分けて運行しています。「季節運行便」は、旅館の送迎バスがあるため休止とします。

また、統合する便の7～9月の乗客数を3、4ページに記載しています。乗客が多かった9月15日（土）のM5とM6を例にあげると、M5は38人、M6は57人、合計で95人となります。定員の65人を超えていると思われるかもしれませんが、これは全バス停の乗客の合計であり、常にこれだけの人数が乗車しているわけではないため、定員65名のバスでも乗りきれると分析しています。

次に、利用促進策として、小松空港を利用する沖縄からの誘客推進のほか、過日、錦城特別支援学校の生徒を対象にバス研修を実施しました。粟津温泉への乗り入れについては、7ページに記載のとおりです。8月時点では、バス停を2箇所設置し、10月から乗り入れることとしていました。しかし、道幅等の関係上、7ページにあるバス停のほか、もう1箇所が決まらなかったため、まずは、この1箇所で始めたいと思います。粟津温泉は今年、開湯1300年ですので、この機会に乗り入れを開始したいと思います。小松バスのバス停と併設となりますが、ダイヤが被らないよう調整し、了承を得ています。

次に、まちづくり加賀の予算については、1ページに記載しています。今年度は、4,300万円の事業収入を見込んでおり、来年度以降は毎年100万円ずつの増収を見込んでいます。消費税の増税に伴い料金を見直すことを考え、このような見込みとしました。施設協力金は毎年減少していますが、各施設には現状維持をお願いしています。受託収入については、市の協力で様々なチケットを販売いただけると伺っています。バス運行委託費は、昨年度5,500万円の支払いでしたが、今年度は減額、来年度以降も減額となる見込みです。給与手当は、減車に伴い職員も減るので減額としています。広告宣伝費については、現在も様々な旅行雑誌に掲載していただいております。今後も加賀市の2次交通を周知していくため、現状維持としています。今年度の営業利益は赤字となる見込みですが、経常利益は黒字にしたいと思います。

北陸新幹線敦賀延伸に向けて、補助金や協力金等に頼っていた体質を改善し、財務を改善したいと思います。加賀温泉駅開業時には、5台、また改善できれば6台で運行したいと思います。

副会長

委員の皆さまからのご質問、ご意見などはございますか。

委員代理

粟津温泉でのバス停の設置は、今回1箇所です断念されたとのことですが、今後、増設する計画はありますか？

まちづくり加賀

粟津温泉の方々には、設置場所が決まり次第、増設を望んでいます。また、小松市や能美市からも様々な打診がありますが、まずは、財務改善が最優先事項と考えています。粟津温泉でのバス停増設については、先方から要請があれば、4月のダイヤ改正時に改めて皆さまに審議していただきたいと思います。

委員

健全な経営状況の中で事業を進めていくことは適切なことだと思います。

まちづくり加賀

現ダイヤでは M6 と M7、改正後のダイヤでは M4 と M5 の間が 2 時間ほどあいていますが、宿泊の方は 11 時にはキャンバスに乗車し 14～15 時に戻って来ます。電車の方は、14 時過ぎに加賀温泉駅に到着することが多いです。数年前まで 13 時台の便がありましたが、乗客がほとんどいなかったもので、これらのデータを基に、このようなダイヤとしました。

委員

バス事業は大変厳しい状況です。加賀市等から補助金をいただきながら、なんとか経営を続けていますが、まさしくバス事業の実態と思いながら、今回の議事を見させていただきました。乗務員不足も深刻な問題です。大型 2 種免許を持っている方でないと採用できず、また、加賀市は有効求人倍率が高いということもあり、求人してもなかなか集まらず苦勞しています。そのため、乗務員の年齢が上がり、年齢が上がれば病欠者が出て人員が減る、といった悪循環の繰り返しです。キャンバスを運行する日本海観光バスにおいても同じ状況かと思います。路線に優先順位を付けさせていただき、路線の廃止や減便等を順次進めて行かなければならない状況です。廃止し辛い路線ばかりですが、利用が少ない路線については、廃止を考えなければならないと思っています。バス事業の厳しさをご理解いただければと思います。

副会長

減便とまらないようお願いしたいと思います。

今年は大雪に始まり電車の運休等、天候に影響されることが多かったと思います。このような点も踏まえて、まちづくり加賀においては、今回の減便を考えられたのだと思います。回復の兆しが見られれば、減便した部分の再開も期待したいと思います。

それでは、議事 1 及び議事 2 について、ご承認いただける方は挙手をお願いします。

(全会一致で承認)

5 閉会

事務局

ご審議ありがとうございました。本日の会議はこれをもって終了いたします。